

9月9日(金) ポスターセッション 文学部校舎3階踊場

掲 示 10:00～17:30
発表者説明 12:30～13:20

東海大学における TOEFL(ITP)® 実施による単位認定・進級条件と TOEFL® 対策講座 Administration of TOEFL(ITP)® for Credit Certification, Prerequisite to 5th Semester and TOEFL® Elective Classes at Tokai University

川口 格昭(東海大学)

Noriaki Kawaguchi(Tokai University)

I.研究の目的

本目的は、発表者が、東海大学における2001年度から導入した外部試験でも英語必修単位を認定する、その一つの試験である TOEFL(ITP)® に深くかかわった経緯から、単位認定の実態と、2003年度の医学部生から対象となった TOEFL® による第5セメスター(第3学年)への進級条件の達成度を検証し、さらに2005年度に新たに開講される科目を含めた TOEFL® 対策講座を紹介するものである。

II.単位認定としての TOEFL®スコア利用

TOEFL®600点(CBTで250点)以上の場合は英語必修科目の内の3科目6単位を認定し、550点(CBTで213点)以上の場合は2科目4単位を認定するだけとなっている。尚、東海大学では一部の学部、学科を除いて卒業に必要な科目単位数は、4科目8単位となっており、いずれの場合でも認定単位だけで卒業はできないことになっている。2001年度から2003年度までは、正規の TOEFL 個人受験のスコアだけをこの単位認定に認めてきた。2004年度以降は英語科目担当部署である外国語教育センター主催で、2001年度以前から行ってきた団体受験(Institutional Testing Program) ITP のスコアでも単位認定の対象とした。従って現時点で1名が認定されるスコアを取得しているが、参考までに2001年からの受験者数と単位認定スコア到達者数は以下の通りである。

実施日	受験者数	550～599到達者数
2001. 5. 25.	71	2
2002. 6. 7.	39	0(最高523)
2002. 11. 19.	29	1
2003. 5. 23.	49	1
2003. 12. 11.	67	1
2004. 6. 10.	81	1
2004. 11. 11.	75	0(最高543)

これまでに、団体受験で600点以上を取れた学生は出ていない。実施日毎の詳細いス

コアレンジは、発表当日掲示する。

III. 医学部における進級条件：TOEFL® のスコア利用

2002年度以前から医学部生の英語必修科目は、特別プロジェクトとして外国語教育センターの教員が担当してきたが、2003年度から新プログラムの特長の一つとして英語力を重視するために、第4セメスターから第5セメスター(第3学年)に進級する条件として TOEFL® 500点以上が求められている。この条件をクリアするために、前述の外国語教育センター主催の ITP と医学部主催の6回の ITP、更に公式テスト個人受験のいずれか1回のスコアを提示することになっている。第2セメスター生(1年生)の18人がIIで述べた2004年11月のテストを受け、そのうち4人が500点に到達する結果となった。2005年1月31日現在の500点到達率は、第4セメスター生(2年生)で34.4%、第2セメスター生(1年生)は、17.4%となっている。この中には、1回で500点をクリアした者もあり、最高点は第4セメスター生、613点、第2セメスター生590点である。未到達者のスコアを含めた詳細は発表当日掲示する。尚、医学部は他の学部と異なり、1年間で4科目8単位を履修するカリキュラムで、2年目には外国語教育センター担当の英語の授業がないため、特別講座を外国語教育センターから教員を派遣する形で土曜日に開講中である。

IV. TOEFL®対策講座

現行カリキュラムでは、将来留学を希望している学生や、海外で仕事に就きたい学生更に就職活動に役立つ資格としたい学生のニーズに応えるため、レベルを初級(A)、(B)と中級の2つに分け、初級(A)を除いて、週2回を半年で完結する2単位のクラスと、外国人教員が英語で授業を行うクラスも開講されている。更に2005年4月からは、多様化する学生の学力に対応できるように、基本的な語彙、文法を習得していないが将来留学を希望している意欲的な学生を対象とした入門コースの新設に踏み切った。このクラスを含めた各レベル別のクラスの概要と発表者が担当したクラスの其々のシラバスは発表当日掲示する。

V. 今後の検討課題

これまで議論されている通り、日本の大学英語教育の到達目標として TOEFL®は、必ずしもすべての学生の英語力を測定する最適なテストと言えないかもしれないが、校内でのアチーブメントテストのスコアよりは、受験者の英語運用力を限られた時間で測定できるスタンダードな試験であろう。英語圏での日常生活と大学生活での英語運用能力をより適切に測定出来るよう、TOEFL®はスピーキングを含めた新方式のテストの導入を2005年9月からスタートさせる予定となっている。受験料だけのことを考慮すれば、学生個人の英語力の把握には TOEFL(ITP)®が現在の時点では最適と考えられる。